

不妊・不育の専門相談室開設

公明新聞:2004年6月18日付



少子化対策として岡山県が推進 予約は満杯の状況 広島など県外の来訪者も 岡山大学医学部・歯学部付属病院

開設して1カ月の相談室を訪れ、現状や要望を聞く党岡山県本部の議員

公明党の高橋英士岡山県議と岡山市議団は7日、岡山大学医学部・歯学部附属病院内に、5月7日に開設された「不妊、不育ところの相談室」を視察した。一行は、相談室担当の産婦人科医・中塚幹也氏(岡山大学附属病院・講師)から利用状況を聞くとともに、要望などを聞いた。

同センターは少子化対策の一環として、不妊症や不育症(習慣性流産)などで子どもを持つことができない夫婦を対象に、専門家が相談に応じるもの。開所時間は毎週水、金曜日の13時から17時。


スタッフは専門的知識や技術を持つ産婦人科医やカウンセラー、看護師などで、治療や検査に対するアドバイス、必要によって、産婦人科だけでなく精神科や内科など他の診療科への紹介も行う。電話、ファクス、Eメールでの相談も受け付けている。

5月末までの面接相談者は67人で、相談予約は7月初めまで満杯の状況。中には県外の兵庫県や愛媛県、広島県からの相談者もいる。中塚氏は「相談センターへの関心は高く、治療を受けている病院だけでなく、他の施設でも納得できるまで相談したいと思っている方が多い」と語る。

この日、視察した本郷由子党県女性局長は、「相談センターができて本当にうれしい。これからはさらに、事故や病気で不妊に至るのを防ぐ、教育や施策にも力を入れて取り組んでいきたい」と語っていた。

不妊治療の支援策については、高橋県議が2003年6月の議会で代表質問したり、県本部女性局が署名運動を展開するなど、県本部を挙げて積極的に推進してきた。

公明新聞をぜひご購入ください。お申し込みは[こちら](#)へ

 [デイリーニュースインデックスへ](#)

